

コンセプトカフェへの入職動機と他風俗産業への 移行過程

—コンセプトカフェでの参与観察および 従業員に対するインタビュー調査から—

濱田 龍河

本研究は、風俗営業許可を得ていない「コンセプトカフェ」の従業員を対象に、彼女らの就労働機、労働環境、ライフスタイルへの影響を社会的視点から分析するものだ。「コンセプトカフェ」は、特定のテーマで内装や接客スタイルを統一した飲食店であり、風俗産業ではないものの、しばしば法的規制の対象となるなど、社会的なネガティブイメージが付きまとう。その一方で、これらの店舗がどのように従業員の就労意識や生活に影響を与えるかは、十分な研究がなされておらず、この点を明らかにすることが本研究の目的である。

調査からはまず第一に、コンセプトカフェでの就労働機として以下の要因が挙げられた。従業員は一般的な飲食業と比較し、時給の高さや歩合制による収入の上昇を魅力に感じている。特に、努力が反映される給与制度は、他のアルバイトにはない大きな利点とされている。ただそれだけが要因ではなく、髪型や服装が自由であること、さらにはかわいい制服を着用できる点も、若い女性にとって就労働機となっていることがわかった。さらに従業員によるスカウトがきっかけで就労を始める場合も見受けられた。スカウトは人手不足の解消や業務負担軽減を目的とし、多くの従業員にとってはメリットが大きい行為だということがわかった。

コンセプトカフェへの就労は、金銭的側面のみを背景とするキャバクラや性風俗業とは異なり、「楽しそう」「簡単そう」といった軽い動機で始まる傾向にある。また、コンセプトカフェの従業員は自身の職業を逸脱的なものとは捉えておらず、一般的なアルバイトと同列に考えているということが分析できた。

第二に、売上や人間関係を通じて自分の価値を確認できる環境が、職場を心理的な居場所とし

て機能させていることがわかった。コンセプトカフェの内部では、売上やパフォーマンスに基づく階層化が見られ、それが対立と協調の両面に影響を及ぼすことがわかった。売上が近い従業員同士でグループが形成され、互いに協力しながら業務を進める一方で、売上差による嫉妬や不満が対立を生む場合が見受けられた。ただし、後輩への指導やチーム内での協力は、業務効率や職場の雰囲気向上させるために重視されていた。また調査対象者の多くは、当初抱いていた「怖い」「大変そう」といった印象に反し、就労後は「楽しい」「やりがいがある」と感じるようになったと語っていた。特に、また、顧客からの評価が収入や人気として反映されることが、仕事への満足感や自己肯定感を高める要因となっており、居場所としての機能を得ることに結実していた。

第三に、学校とコンセプトカフェの居心地の良さや、金銭面を考慮した結果、学校を中退し、コンセプトカフェで長時間働くことを選択する者がいた。コンセプトカフェの給料が学校を卒業して新卒で働く場合に比して高いことに加え、校則等の制約も少ないことから、その選択に至ったことがわかった。ただ、コンセプトカフェの出勤数に比例して給料が上がるわけではないこともわかった。

第四に、コンセプトカフェよりも良い給料を求めて風俗産業や性風俗産業に移行する者が見られた。コンセプトカフェでの売り上げの高い月を基準に将来の所得について楽観的な予測をする者が多く、それ故思うように稼げないと更に稼げるであろう風俗産業や性風俗産業へと移行していった。しかし、移行後においても楽観的な予測をやめない者が多く、自分が思うように稼げていない者が多かった。

第五に、学校からコンセプトカフェに居場所が移行した彼女らが、さらにホストクラブといった風俗店に居場所を移行させる様子が見られた。これは、コンセプトカフェでの仕事によるストレスや悩みを、風俗産業で働く者に聞いてもらおうとすることが要因である。結果的に「ハマって」しまうと、高額を風俗店で費やすこととなり、さらには元の居場所にいる周囲の人からの心配も振り切ることから、居場所が移行していくことがわかった。

本研究を通じて、コンセプトカフェが高賃金や自由な環境を求める者にとって魅力的な選択肢となり、「標準的ライフコース」を外れた就労が選ばれる背景には、コンセプトカフェ自体の魅力に加え、金銭的魅力や学校の居場所機能の欠如が複雑に絡み合っていることが明らかになった。また、コンセプトカフェが学校に代わる居場所として機能する一方、金銭感覚の変化や風俗産業への転職の連続性も確認された。これらを風営法の改正により、コンセプトカフェを風俗産業に位置づけることで、業界の透明性を高め、法的規制の下で問題を抑制する必要があるだろう。また、未成年者の就労を禁止する規制を強化し、学校からの離脱や風俗店への流入を防ぐべきである。加えて、風俗産業やコンセプトカフェで働くリスクについて社会全体での周知が必要であり、特に金銭感覚の変化や身体的・精神的影響に関する情報提供が求められる。これらを実現するためには、さらなる調査を進め、リスクを解明し正確な情報を共有することで、リスクを理解した上で行動を選択できる環境を

整えることが重要である。また学校を卒業し新卒で就職する「標準的ライフコース」よりも、コンセプトカフェでの就労を選ぶ背景には、高賃金や柔軟な労働環境の魅力、学校教育への不満が複雑に絡み合っている。本調査では、自由な職場環境を求める一方で、学校が居場所として機能していないことがこの選択を促進していることが示唆された。これらの要因を総合的に理解し、改善策を検討する必要があると結論付けた。